式

式を使用すると、データの計算や特定の条件でのデータの抽出などが行えます。式は、入力規則に従って記述します。

◇式のイメージ

営業担当者0045の、金額が100万円以上のレコードを見たい
(式) [営業担当者] = "0045" AND [金額] >=1000000

(フィルターでの使用例)

売上データ2017上期

[営業担当者] = "0045" AND [金額] >=1000000

	売上番号	計上日	商品No	数量	仕入単価	販売単価	金額	営業担当者	入力担当者	入力日時
1	11521	2017/01/07	30601001	871	422	1,850	1,611,350	0045	0047	2017/01/07 14:43:33
2	11602	2017/04/14	30103007	794	730	3,200	2,540,800	0045	0047	2017/04/14 16:33:47
3	11654	2017/06/16	30104006	759	439	1,450	1,100,550	0045	0047	1900/01/01 00:00:00

◇式の使用場所

- フィルター
- メニューコマンドの「IF条件」
- 《新規フィールド追加》の「初期値」、「条件」、「式または値」
- 関数の引数

© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

◇式の入力規則

式は、フィールド、リテラル値、演算子、関数、論理値で構成されます。

- **フィールド**

  フィールドの値を処理する場合は、フィールド名の前後に[]（半角）を付けて記述します。式では、[]が付いたものをフィールド名と認識します。「金額」フィールドは、[金額] と記述します。

- **リテラル値**

  式に記述する固定の値（文字、数値、日付時刻）をリテラル値といいます。値のデータ型ごとに入力規則が決まっています。

値のデータ型	規則	例
文字	値の前後に半角の二重引用符（"）を付けます。	"東京" ""（二重引用符のみで、空欄を意味します）
	※二重引用符を値として扱う場合は、二重引用符に代えて、半角の一重引用符（'）を付けます。	""'（二重引用符を値として使用するため、二重引用符の前後に一重引用符を付けます）
	※半角の円マーク（¥）を値として扱う場合は、¥の前に¥を記述します。	"¥¥"（¥マークの前に¥マークを入れることで、¥マーク1文字を指定したことになります）
数値	半角の数字で入力します。 桁区切りのカンマは不要です。	1000 -1000 1.5
日付時刻	値の前後に半角のバッククォート（`）を付けます。 日付と時刻の間は半角スペースを入力します。 「/」や「:」などの区切り記号は不要です。 日付を指定せず、時刻のみを指定する場合は、時刻の前に「t」を付けます。	`20230201`（2023年2月1日） `20230201 081020` （2023年2月1日 8時10分20秒） `t081020`（8時10分20秒）

© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

- **演算子**

  比較演算、四則演算、論理演算に用いる記号です。半角で入力します。

演算子	意味	式の例	備考
=	等しい		
<>	等しくない		
<	より小さい		
>	より大きい		
<=	以下		
=>	以上		
+	加算、文字連結		
-	減算		
*	乗算		
/	除算		
^	べき乗		
()	計算の優先順位の指定	[金額]*([金額]-100)	()内を優先して計算します。
AND	かつ（論理積）	[金額]<0 AND [地域]="関東"	演算子の前後に半角スペースを入力します。
OR	または（論理和）	[地域]=”関東” OR [地域]=”東北”	
NOT	ではない（否定）	NOT([地域]=”関東”)	

- **関数**

  「関数」を参照してください。

- **論理値**

  論理値は、式の結果が真（True）であるか偽（False）であるかを示す値です。THUMGY Dataでは、真の場合は「True」、「T」、「TRUE」、「true」、偽の場合は「False」、「F」、「FALSE」、「false」のいずれかを記述します。記号は付けません。

  ※小文字の「t」「f」は論理値として認識されません。

（式の例）

BETWEEN([計上日],`20230101`,`20230115`) = True

計上日が 2023/01/1～2023/01/15の範囲内にあるレコードを抽出します。

⇒右のデータでは、番号1のレコードが抽出されます。

BETWEEN([計上日],`20230101`,`20230115`) = False

計上日が 2023/01/1～2023/01/15の範囲内にないレコードを抽出します。

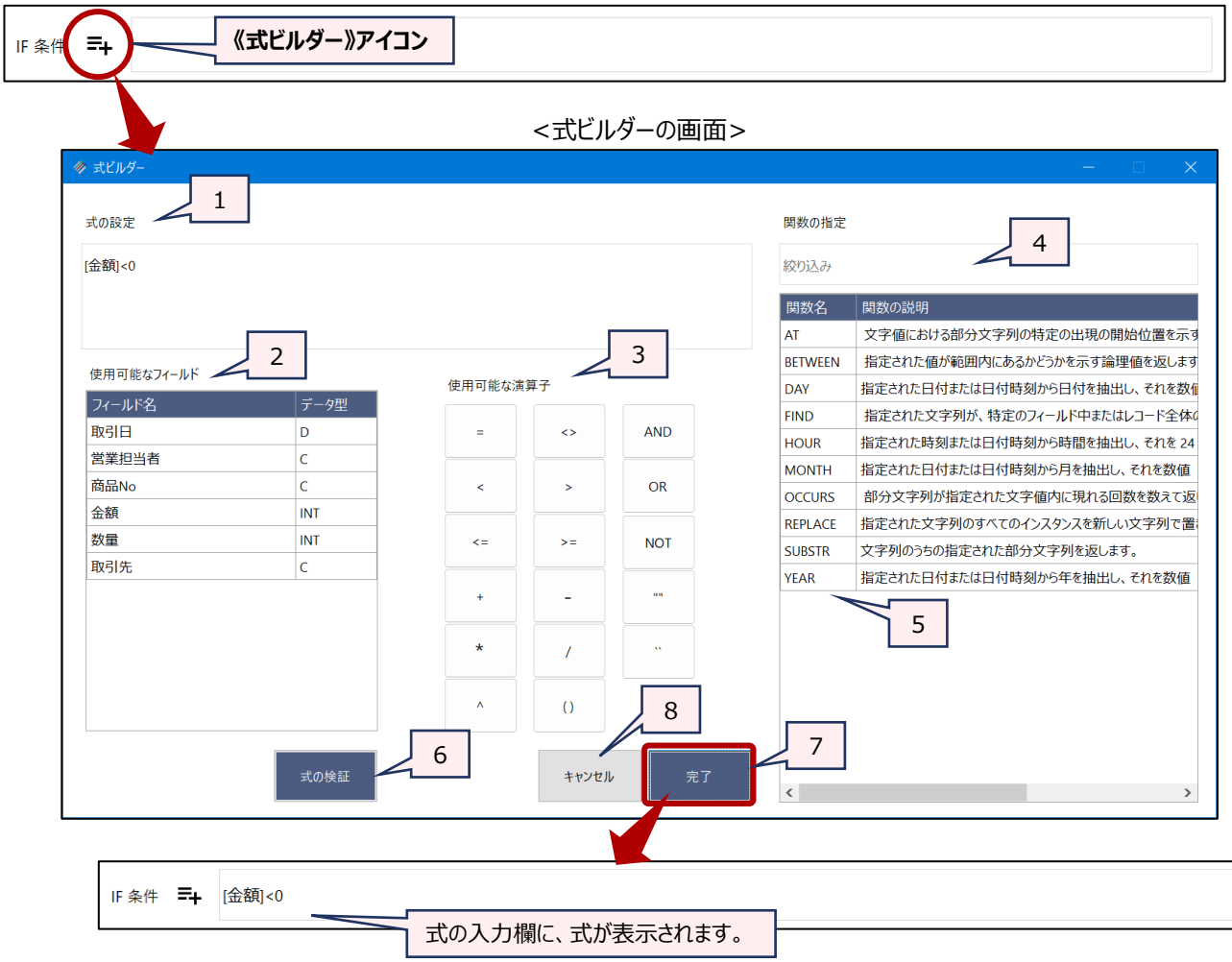
⇒右のデータでは、番号2、3のレコードが抽出されます。

番号	計上日
1	2023/01/10
2	2023/01/20
3	2023/01/30

© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

◇式ビルダー

「式ビルダー」は式の入力補助の画面です。《式ビルダー》アイコンがある箇所では、「式ビルダー」が使用できます。



1. 式の設定　　：式の入力欄です。
2. 使用可能なフィールド
   ：現在のテーブルのフィールドの一覧です。フィールド名のダブルクリックで「式の設定」に入力されます。
   フィールドは、テーブルの列の並び順で表示されます。「フィールド名」、「データ型」の見出しの右側をポイントする表示される▽のアイコンのクリックで、フィールドの名前順（昇順・降順）、データ型のカテゴリ順（昇順・降順）に並び替えできます。
3. 使用可能な演算子 ：演算子のボタンのクリックで「式の設定」に入力されます。
4. 関数の指定 – 絞り込み
   ：関数の一覧から関数を検索します。関数名の一部（または全部）や文字を入力します。
   （例）
   - 「f」と入力 → FIND関数、OFFSET関数が表示されます。
   - 「日付」と入力 → 「関数の説明」欄に「日付」という文字が含まれる関数が表示されます。

© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

5.関数の指定 – 関数の一覧
：関数の一覧です。関数名のダブルクリックで関数の入力画面が開きます。

6.《式の検証》ボタン ：「式の設定」に入力された式の構文が正しいかをチェックします。
- ●エラーがある場合：エラーメッセージが表示されます。
- ●正しい場合： 「正しい構文」と表示されます。

7.《完了》ボタン ：入力内容を保存して、式ビルダーの画面を閉じます。

8.《キャンセル》ボタン ：入力内容を保存せず、式ビルダーの画面を閉じます。

◇式の作成のヒント

- 文字列の一致の検索

  演算子「＝」で、文字列の一致を検索する場合、完全一致検索となります。また、大文字と小文字は区別されます。

  （例）[都市]=”Tokyo”

  [都市]フィールドの値が"Tokyo"と一致するレコードを抽出します。

  ⇒右のデータでは、番号1のレコードのみが抽出されます。

番号	都市
1	Tokyo
2	TOKYO
3	Tokyo-to

  部分一致検索、大文字・小文字を区別しない検索を行うには、FIND関数を使用します。

- 日付の減算・加算

  日付時刻型のデータに数値を加算・減算すると、日数の追加・削減になります。

  （例）[入力日]+1 [入力日]フィールドの値が「2023/02/01」の場合、「2023/02/02」となります。

  [入力日] -1 [入力日]フィールドの値が「2023/02/01」の場合、「2023/01/31」となります。

© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.